

# 第三回

# 大沼由紀舞踊公演

二〇〇七年 11月25日(日)

開演夕刻4時(開場3時30分)

全労済ホール／スペース・ゼロ

全席指定 七千円(前売り) 七千五百円(当日)

【出演アーティスト】

José Gálvez (カンテ・ギター)

Ismael Heredia (ギター)

Manuel "Cantarote" (パルマ)

俵英三 (ギター)

石塚隆充 (カンテ・パルマ) 友情出演

大沼由紀 (バイレ)

二〇〇七年 11月25日(日)

*Espontánea III*

- フラメンコ、自然発生的な -

二〇〇七年 11月25日

開演夕刻4時(開場3時30分)

全労済ホール／スペース・ゼロ

全席指定 七千円(前売り) 七千五百円(当日)

【出演アーティスト】

José Gálvez (カンテ・ギター)

エストゥディオ・ブレーニャ  
03-3319-2280  
info@yuki-onuma.com





# 第三回

# 大沼由紀舞踊公演

*Espontánea III*  
～フラメンコ、自然発生的な～

大沼由紀  
Yuki Onuma



フラメンコ舞踊を佐藤佑子に師事。92' 渡西。マドリッド、セビージャに滞在後、ヘレスのフラメンコに強く傾倒し、帰国後も東京とヘレスを行き来しながら、フラメンコと自身の関係を探り続けている。2004年、ヘレスの至宝、故ディエゴ・デ・ロス・サントス「ルビチ」を筆頭にドミンゴ・ルビチ、ホセ・ルビチ、ファンジヨロを招聘し、第一回大沼由紀舞踊公演「Espontánea」～フラメンコ、自然発生的な～を行う。翌年同公演が、スペイン舞踊振興マルワ財団の助成対象作品に選ばれ、再演を果たす。2007年、マドリッドのフラメンコフェスティバル「Suma Flamenca」に依英三氏と共に出演し、フラメンコ舞踊の伝統の上に立つ、自身の踊りの発見を評価される。舞踊家として活躍する一方、東京中野にあるスタジオでは、後進の指導にも力を注いでいる。

プーロ・フラメンコに惹かれ続けた。

探し続け、求め続け、今ここにあるものは？

作詞・作曲・歌・ギター、その全てをこなすアーティスト、ホセ・ガルベスを迎え、

今、大沼由紀は何を探し、何を見つけるのだろうか。

【プーロ＝視ざり物のない、純粋な】

サンティアゴ地区の歌い手を祖に持つヒターノのファミリアに生まれ、わずか9歳でギタリストとしてデビューを果たす。10代で国内外のツアーに参加。その後、一時期居を移したマドリッドでは、歌い手、ギタリストとして活躍し、マリオ・マジヤ、エル・グイト、マノレテといった巨匠達と共演する。モライート・チコ企画による「JEREZ JOVEN POR BULERIAS」での彼の曲は高い評価を受け、翌年には初ソロCD「Bohemio de amor」を発表。歌い手、作曲家としての才能も認められ、ホアキン・コルテスの「ジブシー・パッション」マノロ・サンルーカルの「タウロマヒア」など、フラメンコ史上に残る作品にも出演する。2005年にリリースされた「Galvez and the nacional orchestra of Nowherista」では、アラブ、ユダヤ、キューバ音楽のエッセンスと彼のフラメンコを見事に融合させ、鬼才ぶりを発揮。名門ファミリア出身の正統派カンクオールとして、一方では自らのギターで愛を語る吟遊詩人として、ヘレスの伝統と自由さを併せ持つ彼に今注目が集まっている。

ホセ・ガルベス  
José Gálvez



舞台監督：やまだてるお (モモプランニング)

照明：佐々木孝高

音響：浦崎貴 (株式会社 ワンダースリー)

映像記録：寺田聡 (株式会社 スタジオ・オズ)

写真撮影：大森有起

協力：飯塚真紀

FLAMENCOLABO

衣装：小高光江

2007年11月25日(日)

開演16:00(開場15:30)

全席指定 7,000円(前売り) 7,500円(当日)

全労済ホール/スペース・ゼロ

新宿駅南口徒歩5分 Tel. 03-3375-8741



チケット取扱い

■エストゥディオ・プレーニャ

03-3319-2280 info@yuki-onuma.com  
http://www.yuki-onuma.com

■スペース・ゼロ チケットデスク

http://www.spacezero.co.jp/

後援：スペイン大使館

提携公演：全労済ホール/スペース・ゼロ

SPACE ZERO



イスマエル・エレディア  
Ismael Heredia

歌伴奏はもとより、踊り伴奏でも活躍する若手ギタリスト。ヘレスのタブラオ、el Laga, La Taberna Flamencaにて研鑽を積む。カプージョ・デ・ヘレス、マテオ・ソレア、ナノ・デ・ヘレス、ホセ・メンデスなど数々のヘレスの歌い手の伴奏を務め、欧米諸国でのツアー経験も豊富である。ヘレスのビエルネス・フラメンコでの、踊り伴奏のオフィシャルギタリストでもある。



マヌエル・カンクローテ  
Manuel "Cantarote"

サンティアゴ地区のカジェ・スエバ出身。「カンクローテ」という芸名を持つヒターノ一家の若手バルメロ。若干24歳ながら、カプージョ・デ・ヘレス、モライート・チコ、アントニオ・エル・ビバなどヘレスを代表するアーティストとの舞台経験を持つ。現在は、同じくサンティアゴ出身のディエゴ・カラスコのグループでの仕事でよく知られている。



依英三  
Eizou Tawara

82' 渡西。在西20年。ギタリストとして現地のタブラオ、ペーニャ、フェスティバル等で活躍。帰国後は、日本とスペインを行き来しながら、ビエルネス・フラメンコ、ビエナル・デ・セビージャ、フェスティバル・デ・ヘレス等の大舞台に出演。2005年初CD「エル・プエンテ・デ・エスベランサ」をリリース。2007年、マドリッドのフラメンコフェスティバル「Suma Flamenca」に出演し、大きな反響を得た。



石塚隆充  
Takamitsu Ishizuka

若手実力派カンクオール。スペインに通算8年間ほど滞在し、生活を通しフラメンコを学ぶ。また、現地アーティストとフェスティバルやコンサートに多数出演するなど、日本人離れした彼の唄は、国内はもとより現地の人からも定評がある。